

## 一般演題 8-2

## 沼津市にあるダイブサイトでの事故の傾向について

野澤 徹<sup>1,2)</sup> 刈部 徹<sup>1)</sup> 村田清臣<sup>1)</sup>

- |                            |
|----------------------------|
| 1) NPOアンダーウォータースキルアップアカデミー |
| 2) 水中科学研究所                 |

首都圏ダイバーのほとんどが一度はダイビングした経験があると思われる西伊豆最大のダイブサイトでの事故について、その事故報告書を基に報告する。当該地域は、毎年約5万人のダイバーが訪れるわが国屈指のダイブサイトである。駿河湾に面し、穏やかな湾内を有していることから、初心者講習からテックダイビング講習、ショップによるツアー、バディダイビングと多彩な活動が行われている。サービス提供者は、潜水協会を組織し、緊急時の対応システムも構築しており、事故が発生した場合に報告書を提出しデータを収集している。以下は、2005年（平成17年）から2015年（平成27年）までの期間で救急車出動を依頼し、報告があったものの集計である。

上記期間中の事故（死亡を含む）は51件で、そのうち死亡は13件であった。年平均で、事故は約4.6件、死亡は約1.2件である。事故のうち、男性が27件、女性が16件、不明が8件で、全体に占める割合は、それぞれ、52.9%、31.4%、15.7%であった。男女不明は、報告書に記載がないものである。死亡者では、男性7件（53.8%）、女性4件（30.8%）、不明2件（15.4%）であり、死亡を含む事故全体の割合とそれほど変わらない数字を示した。

年代別で見ると、10代では、3件（死亡1件：以下カッコ内死亡件数）、20代では、5件（1件）、20代、5件（1件）、30代、10件（1件）、40代、17件（5件）、50代、7件（2件）、60代以上、6件（2件）、不明、3件（1件）であり、全体に占める割合は、それぞれ、5.9%（7.7%）、9.8%（7.7%）、19.6%（7.7%）、33.3%（38.5%）、13.7%（15.4%）、11.8%（15.4%）、5.9%（7.7%）であった。事故および死亡者に占める40代以上の割合は、それぞれ、62.5%と75.0%（不明者を除く事故48件、死亡12件での数値）であった。海上保安庁のデータからも中高年ダイバーの問題が指摘されているが、同様の結果であった。

ダイビングの形態で見ると、このダイブサイトの特徴がよく表れている。講習が多く、また、バディでの潜水も行われていることが見て取れる（表1）。

死亡13件中、何らかの形での講習の場合が、5件（38.5%）、バディダイビング（インストラクターやガイドが同行しないダイバーだけのダイビング形態）、5件（38.5%）、ファンダイビング（インストラクター、ガイドが同行するダイビング）、1件（7.7%）、その他（作業、単独など）、2件（15.4%）であり、事故（死亡除く）では、何らかの形の講習が17件（44.7%）と多くを占めており、そのうち、初心者講習および体験ダイビングでそれぞれ、8件（21.1%）、3件（7.9%）となっている。また、バディダイビングが、9件（23.7%）、ファンダイビング、9件（同）でインストラクターやガイドが同行するかどうかの違いはなかった。死亡原因では、13件中、2件（15.4%）が心筋梗塞（疑いを含む）であり、10件（76.9%）が溺水であった。

より詳しい事故原因の究明が必要とされると思われる。

表1 事故の際のダイビング形態

形態		死亡	事故	
講習	テック	1		
	サイド	1		
	ドライ	1		
	RES		2	
	AD		4	
	OW	2	8	
	体験		3	
セルフ		5	9	（虚偽1）
ファン		1	9	
作業		1	1	
単独		1	1	
訓練			1	
		13	38	